ボーイスカウト

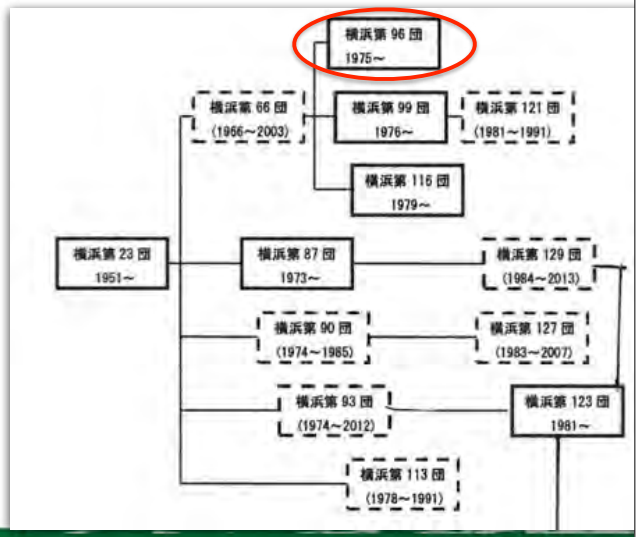
横浜96団の財政状況

横浜96団　団委員長

中川　和之

96団の歴史

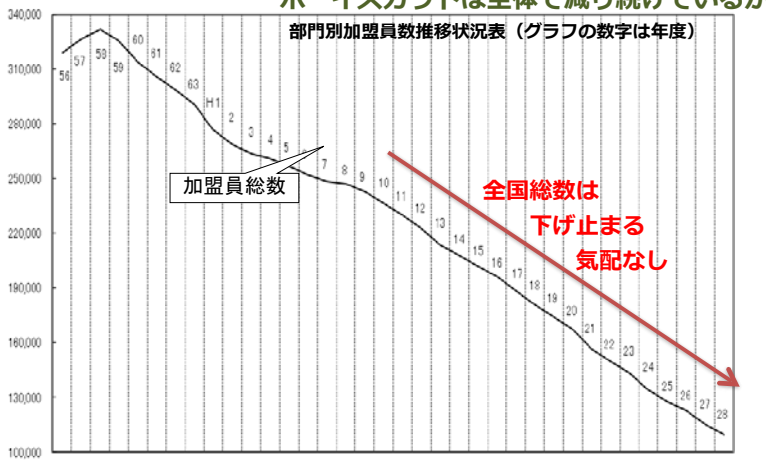
- 横浜23団(1951年発団)から1966年に66団が発足
- 1975年に66団カブ２隊から96団が発足
- いずれも地域団



90団1985年、121団・113団1991年、66団2003年、127団2007年、93団2012年、129団2013年、23団2016年登録終了

ボーイスカウト

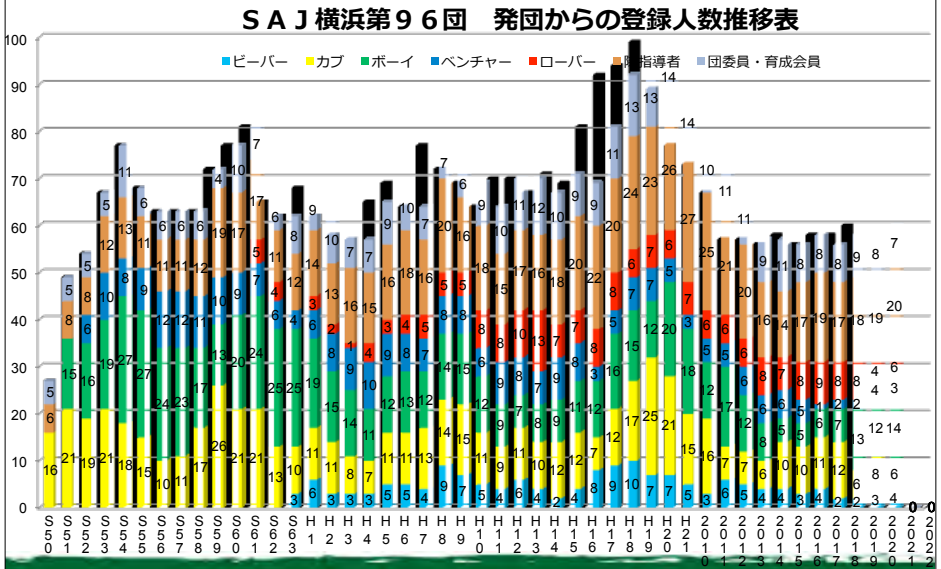
ボーイスカウトは全体で減り続けているが



日本連盟理事社会連携・広報委員長　磯山友幸氏（元日経）pptから

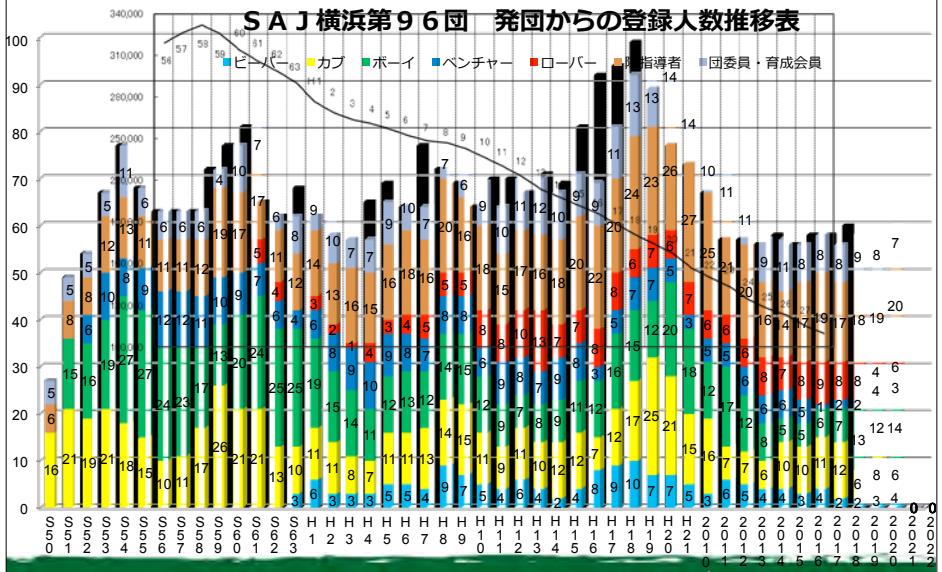
ボーイスカウト

96団のピークは12年前



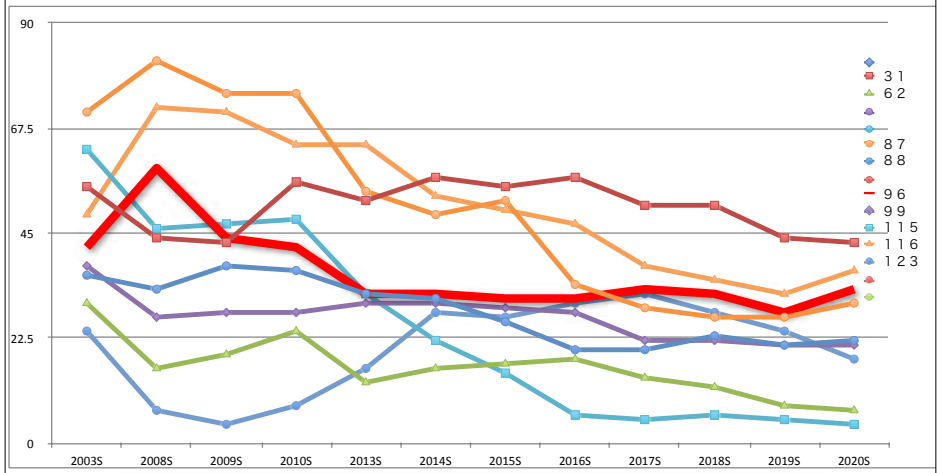
ボーイスカウト

2008年の夏の村時点では100人超、近年はなんとか横ばい



そなえよつねに ボーイスカウト

18年間の旧南央地区各団とのスカウト数比較



みんなの力でなんとか踏みとどまってます

そなえよつねに ボーイスカウト

育成会と団って？

- **ボーイスカウト日本連盟　教育規定**
- 3-3育成会の設立
- スカウト教育に当たっては、保護者をはじめ、教育、宗教、社会奉仕、体育、商工関係その他地域の関係者が育成団体となり、奉仕の精神をもって、スカウト教育活動を維持し発展させるため、育成会を設立する。
- 3-4育成会の任務
- 育成会の任務は、次のとおりとする。
- ⑴　本運動を支援し、団の育成と発展に寄与すること。
- **⑵　教育に必要な施設と経費の責任を負うこと。**
- 現行の96団は、**育成会長が自らの土地を提供し団倉庫に。育成会が会費を集め、団に運営費を支出。団は各隊に活動費**を人数に応じて渡し、各隊は原則その範囲で活動。夏の長期野舎営、冬のスキー・スケートは別集金している。

育成会は子どもたちの活動のスポンサー

そなえよつねに ボーイスカウト

96団の育成会費の変遷　1

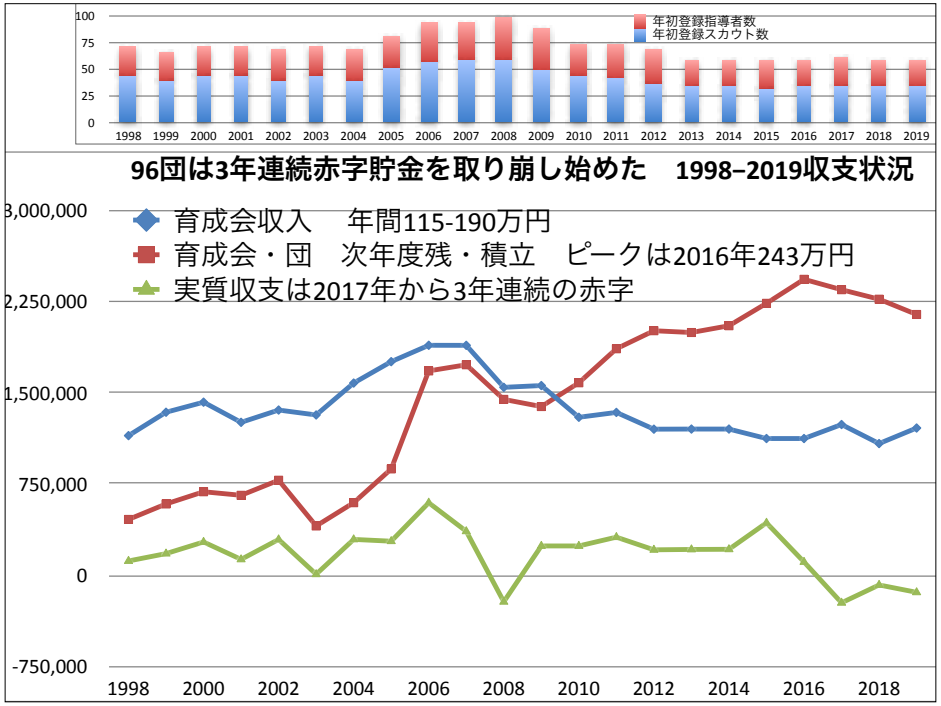
- **2004年まで**　スカウト・指導者1人あたり**日本連盟登録費1500円／年**、県連費1000円／年、地区費1200円／年の計**3700円**を支出。**育成会費は月3000円、第2子以降は月1500円**＋年1回登録費（日連県地区費）3700円。
- **2005年　育成会と団の会計を教育規定に沿って明確に区分**した。**育成会が資金を集め、団に運営費を支出。**団は、各隊に原則スカウト数に応じて活動費を支出、各隊は基本的にその範囲で活動を行う。一体だったカブとビーバーの会計も分けた。**スカウト数増加傾向で団委員長が決断。**
- **全スカウトが登録費・地区費（3700円／年）負担。**第1子育成会費を**2800円／月**と年2400円の負担減。第二子以降は1500円と変わらず。
- **当時は指導者の登録費負担はなく、育成会員1家庭が月1500円を支出して団活動費・指導者登録費などに充当していたようなイメージ。**

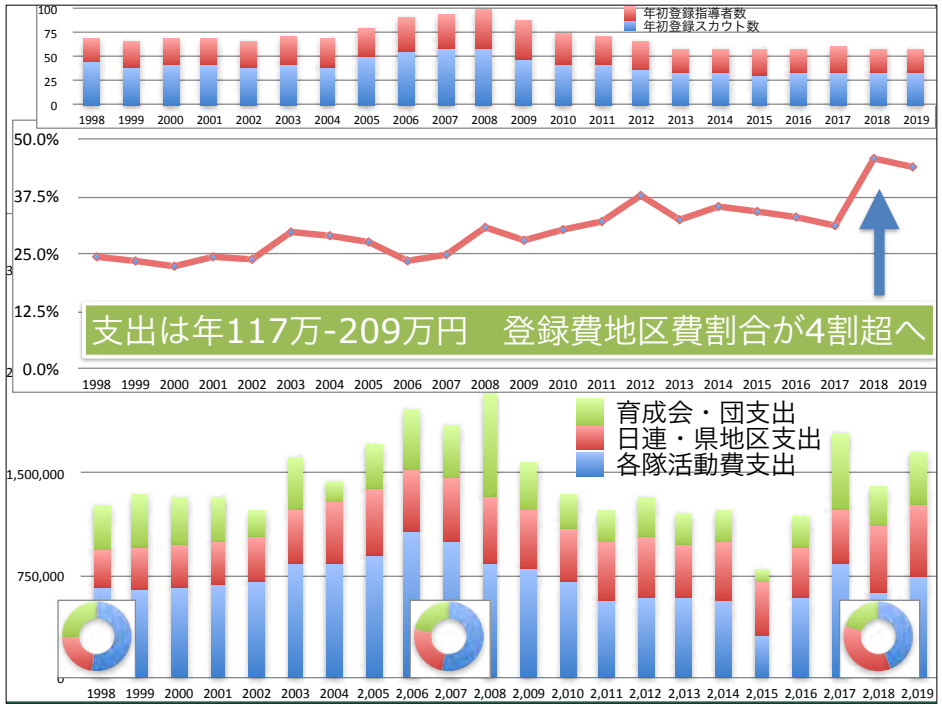
2005年から、育成会から団へ、団から各隊へを明確化

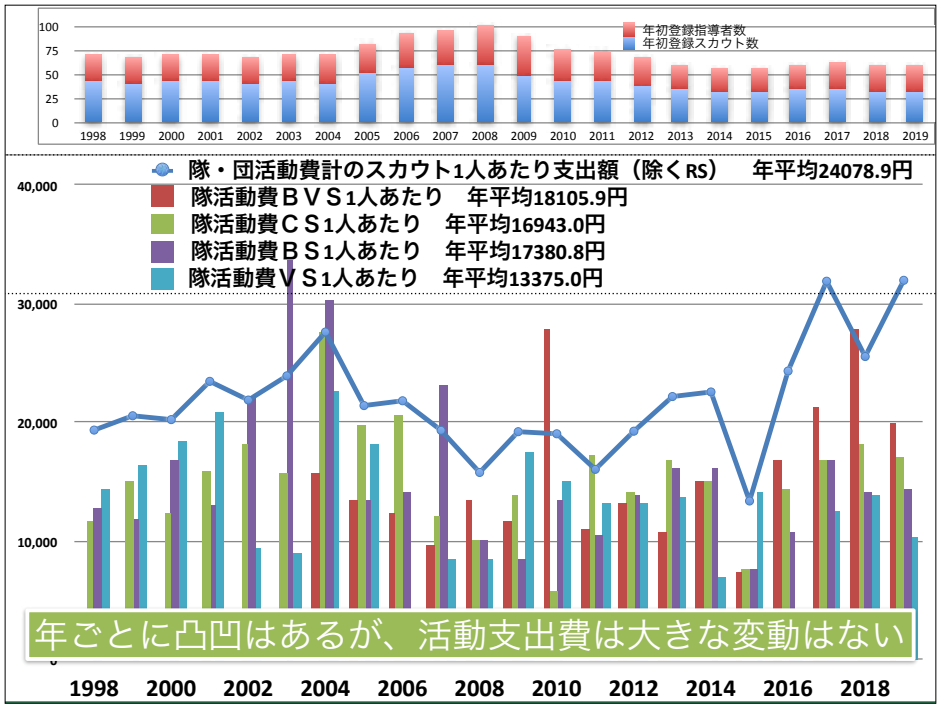
96団の育成会費の変遷　2

- **2008年　賛助会員制度導入**、会費3000円／年　**団にご子息がいない指導者からの負担を明確化**。指導者も、ともにスカウト教育を支えるスポンサーに。
- 2012年　**日本連盟登録費値上げ**　スカウト1500円／年→3000円／年、指導者1500円／年→5000円／年、隊登録料１隊1000円→2000円／年
- **育成会費値上げ**　一般会員月2800円→3000円(BVS据え置き、第二子以降も月1500円と据え置き。**登録する賛助会員は3000円→5000円**
- 「登録するリーダー・団委員の登録費は育成会が負担する」と実態を明記。登録費の値上げ時には、自動的に見直される規定に変更

2008年からは、指導者を賛助会員として共に負担







96団の育成会費の変遷　3

- 2016年　新地区発足で、みなと地区の地区費は4地区の最低に合わせて**年800円**（旧南央地区は1200円）**に下がり、23600円負担減。**旧南央地区から残った地区費をスカウト数に応じて返還され、150858円でBS隊のテント購入（17NSJで使用）、**育成会・団の年度を9-8月から4-3月に変更。**
- 2018年　**日本連盟登録費を再値上げ　スカウト3000円／年→4000円／年**は全額育成会員の負担増**。指導者5000円／年→8400円／年**の値上げに、保護者以外の指導者賛助会費を**5000円以上／年→8000円以上／年**に値上げ。共済の100円増もあり、指導者の登録費は差し引きして2019年度で**前年比40500円の負担増（継続的要因）**→賛助会費の値上げ？
- **第2子割合が18年度32人中6人、2020年度は32人中8人と、スカウト数は同じでも、育成会費は年36000円減る計算（一時的要因）。**→第2子の半額を見なおし？

日連の見通し甘く6年で2度目、指導者負担は5倍以上に

コロナでの減収に特別積立金を活用
周年行事積立金は2024年に団の50周年

- 特別積立金に関する内規（2008年9月）
- 第１条　横浜第96団（以下「本団」と言う）において多額費用の必要時に対応する資金の積立を行い、その利用方法を明確化する。
- 第２条　この内規による資金利用は次のとおりとする。
- （１）スカウト活動中に団として緊急の対応が必要となる場合
- （２）本団加入の保険が適用されない場合
- **（３）本団の維持、運営等において緊急に多額の費用を必要とする場合**
- 2009年度に、旧団広場から旧団倉庫への引っ越し費用として300,578円を支出。都市計画の変更に伴い、金子元育成会長が自宅建て直しの必要が出てきたため、川辺会長宅前の敷地に新倉庫3つの購入と、ゴミの処分費など。2020年度のコロナでの**２カ月分の育成会費徴収猶予は特別積立金取り崩し**も検討。
- 2024年度に周年行事支出　2014年度は173,885円、1999年度は164,379円

そなえよつねに ボーイスカウト

余裕がないと一時的支出に対応できない

- とりあえず、2020年度はなんとかなりますが、何も手を着けず、過去の貯金を取り崩す現状が続くと、数年で底をつく。
  - 登録費の支出がある3月には、50万円以上が必要。登録費の年末までの入金を依頼しているのはこのため（かつてこの時期に資金ショートしそうになったとも）。
  - 2017年：制服切り替え指導者スカウトハット補助：150,846円　（2年分の周年積立を全額振り替え＋α）。めったにないことだが。
  - ボーイ隊のテント購入費　2013年：140000円（予備費から）、2017年：166,768円（旧地区からの返金を団に戻し、予備費から）。老朽化するキャンプ用大型資機材の団での更新は不可欠。新しい生活様式での野外活動に、小テントの必要性も。
  - チーフ制作費：2006年91,165円（予備費から）、2019年75000円（費目計上）＝1本1500円で収入になるので、一時負担ですが。

そなえよつねに ボーイスカウト

財政状況改善のためにできること

- 2018年、19年と連続で、テントなどの資材購入にニッセイ財団の助成に応募中したが、落選。
- 会場費の負担がない田谷の里やケアプラザで、団・育成会会議や、会議的集会を実施してきた。
- 一人単価の高い千秀センターでの野外料理活動を避け、コンクリートU字溝を購入し、団バーベキューなどを金井会館などで実施を検討。
- 各隊の活動で遠距離移動の伴わない活動とするなど、旅費負担を削減する工夫を依頼。
- ただ、今後は感染防止のために福祉関連施設の使用制限が見込まれる。当面は、集団で集まることが困難なため、Zoomを団契約し、夏までは日連が提供しているGoogle meetも活用。会議室代を軽減へ。

そなえよつねに ボーイスカウト

他団はどうか？

- 今回の日連の登録費値上げに伴って、育成会費の値上げをした団の事例は聞いている。
- 育成会費とは別に、各隊で毎月隊費を集金している団は少なくない。育成会費の金額にも差がある。指導者の登録費の負担の仕方もさまざま。保護者リーダーも含めて全額本人負担の団もあれば、全員負担なしの団もある。活動の際の指導者負担もさまざま。現96団BSは指導者の食費を徴収している。**育成会員への透明性が非常に重要**で、隊費の扱いが曖昧でその不審感から退団者が一斉に出た団もある。
- 一方、年間数十万円を地域のお祭りでの食品販売で稼いでいる近隣団もある。宗教団で教会などから支援を受けている団や、地元企業がスポンサーの団もあるという。

そなえよつねに ボーイスカウト

５つの団を渡り歩いた私

- 私が子どもの頃に所属していた**芦屋1団**は、当時4小学校各校にカブ隊、2中学校にボーイ隊、ガールもスカウト育成会に所属。立派なスカウトハウス（地元の医師提供）と備品倉庫、芝生の広場があった。（そんなものだと思っていたら）
- 中3で転校、市教委の紹介で転団した「**横浜84団**」は、団委員長が日連に逆らって登録しないまま、スカウトの制服を着た活動。その年の日本ジャンボリーは芦屋の団から。その後**横浜1団**に転団し、高1で活動をやめた。
- 1996年に子どもが**横浜96団**に入団。スカウトソングやテントの立て方をからだが覚えてたので指導者に。４年神戸勤務を挟んで96団スタッフ。
- 98−02年の転勤で、**西宮25団**(小学校２校学区がエリア）で活動、地域団で育成会費を毎月集金していたが、活動資金が足りなければ隊で別途集金した。震災で倉庫などをなくして衰退した団も周辺にはあった。

そなえよつねに ボーイスカウト

96団の育成会費は値上げは避けられない？
今年度は感染症の拡大に臨機応変

- スカウト数の増加は常に不可欠。（VS/RSの卒業で）年最低4人入団がないと団は減少していく。今年度目標は控えめに3人見積もり。
- 枠組みを変えなければ、育成会費で保護者指導者の登録費を確保していく必要がある。現状の育成会費・登録費の仕組みでトントンまで持っていくなら、スカウト9人増が必要。
- 今後の検討ポイント　全体の増額以外にできることは？
  - 2人目育成会員の減額幅を見なおして月＋500円、2000円に？
  - ビーバーの育成会費を＋200円で同額3000円に？（支出額は同額だが入団者を増やすためには引き上げないという考え方も？）
  - 賛助会費を登録費同額10200円？、＋1000円で9000円？　etc

現状のまま収支トントンにはスカウト9人増

そなえよつねに ボーイスカウト